

とがち東北部3町地域連携ビジョン

平成28年3月

本別町・足寄町・陸別町

(目指す姿)

本連携地域における本別町、足寄町、陸別町では、人口減少社会の本格化に対応するため、地域の特色ある取り組みを互いに連携して、積極的に推進していくこととします。

具体的には、とちぎ東北部3町連携地域協定においては、生活機能の強化に係る政策分野として産業振興、そして、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野として移住促進等を連携項目としました。

とちぎ東北部3町連携地域では、それぞれのまちの魅力を活かしながら、相互の役割分担において、これらの施策を、国や道をはじめ、産官学金労言など、様々な主体とともに、積極的かつ戦略的に進めることで、圏域内で必要な生活機能を確保し、当該地域への移住・定住を促進するとともに、圏域内の活性化と、圏域としての「絆」を持ち、将来にわたって「住みたい、住み続けたい」と思える地域づくりを目指します。

4 地域連携協定に基づき推進する取組

(1) 生活機能の強化に係る具体的取組

① 産業振興

【協定の内容】

地域資源を活かした観光施設等の拠点整備の充実を図り、圏域としての魅力を高め、連携による受入体制の強化や情報発信により、圏域内への誘客・交流人口の拡大を図るための観光地域づくりを推進する。

【具体的取組】

事業内容	<p>○とから東北部3町がもつ「道の駅」機能と各地域がもつ観光資源の連携により、圏域内への誘客・交流人口の拡大を図るため、観光客のニーズ分析に基づいた戦略的マーケティングを担う圏域版DMOの設立を目指す。</p> <p>○地域観光資源や地域特産品等を結合させた稼ぐ力を増強する取り組みを3町で連携して進め、誘客強化と魅力向上の推進により、圏域知名度の向上と地域経済への波及を循環させる流れを創出する。</p>					
事業効果	<p>○連携による効率的な事業の実施や情報発信が可能となり、新たな観光資源の開発や周遊ルートの発掘により、観光入込の増大が期待される。</p> <p>○これまで各町で手掛けてきている農業を中心とする6次産業化や高付加価値化から生み出される地域製品の販売力強化と観光流入を結びつけることで、地域経済が活性化される。</p>					
役割分担	<p>○全体調整及び総合窓口は本別町が行う。</p> <p>○各町は、圏域版DMO立ち上げに必要な人材育成を3町の連携・共同により取り組み、観光地域づくりへの意識の一体化を図っていく。</p> <p>○各町は豊かな自然、気候、特産品などの地域特性を活かし、圏域としての統一性や各地域のオリジナル性を高める観光コンテンツ等の磨き上げを行い、圏域としての魅力拡大につなげる。</p>					
指標	<p>○地域内観光客入込数(平成31年度)：147万人 (H26：1,252,100人) ※「平成26年度 北海道観光入込客数調査報告書」北海道経済部観光局</p>					
事業費見込額 (単位：千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	35,000	3,150	3,150	3,150	44,450

【事業費一覧】

(単位：千円)

市町村名	H27	H28	H29	H30	H31
本別町	0	10,000	1,050	1,050	1,050
足寄町	0	15,000	1,050	1,050	1,050
陸別町	0	10,000	1,050	1,050	1,050
合計	0	35,000	3,150	3,150	3,150

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る具体的取組

①移住促進

【協定の内容】

空き家を活用した住まいの確保などの移住希望者の受入態勢の整備により、移住・交流を促進する。

【具体的取組】

事業内容	<p>○増え続ける空き家を3町のまちづくりの有効な資源として位置付け、空き家を活用した住まいの確保や農業をはじめとする地域産業のしごとづくりの取り組みを行い、首都圏等からの地方への移住を促進する。</p> <p>○空き家実態調査やクラウド型データベースシステムの構築、空き家の活用基準の統一化など、3町共同の調査研究・協議を進め、3町における求人情報の収集から提供までの情報管理を行う仕組みやクラウド型システムなどを3町で共同開発し、移住者の多様な就労ニーズに対応するシステムを構築する。</p> <p>○3町の連携による「とちぎ東北移住サポートセンター」を設立し、移住希望者への住まいや雇用、安心生活を支える取り組みへの対応などの連携事業の推進役を担う「移住アドバイザー（圏域応援隊）」を配置し、相談窓口の一元化や東京圏等へのプロモーションを一体的に行う。</p>					
事業効果	<p>○各町の資源を有機的に活用することが可能となり、移住希望者のニーズに合わせた「くらし」と「しごと」を提案する環境・体制を整備することができ、効率的・効果的に移住・定住を支援できる。</p> <p>○特定空き家の実際の指定や是正措置にあたって、特定空き家の判定を行う協議会を共同設置することで各町の事務負担の軽減や今後の制度運用の標準化から、空き家住宅確保などの利活用の面においても充実が図られる。</p>					
役割分担	<p>○全体調整及び総合窓口は本別町が行い、先駆的に進めている空き家の有効活用に関する情報提供を行うなど、事業の中心的な役割を担う。</p> <p>○各町が連携し、とちぎ東北移住サポートセンターを設置、各町の資源を有機的に活用しながら、移住者用住宅確保や移住体験プログラムの開発等を行い、効率的・効果的に移住・定住を支援する。</p> <p>○各町は、地域の特徴やそれぞれ得意とする分野ごとに新たな仕事創出の早期実現を目指す。</p>					
指標	<p>○地域内へのお試し暮らし体験数：70件/年</p> <p>○地域内への移住者数：60人/H28～H32累計</p>					
事業費見込額 (単位：千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	11,590	24,906	17,369	9,729	9,729	73,323

【事業費一覧】

(単位：千円)

市町村名	H27	H28	H29	H30	H31
本別町	3,500	11,304	3,243	3,243	3,243
足寄町	5,895	6,839	7,363	3,243	3,243
陸別町	2,195	6,763	6,763	3,243	3,243
合計	11,590	24,906	17,369	9,729	9,729

②その他

【協定の内容】

「ふるさと納税」を活用した「新たな仕組みづくり」等から、圏域連携事業の推進を図るための財源確保に努め、連携する3町住民の「ふるさと圏域」としての意識を高める取り組みを推進する。

【具体的取組】

事業内容	<p>○「ふるさと納税」制度を活用し、圏域のための新たな「ふるさと納税」の仕組みをつくり、3町連携によるポータルサイトの設立や取扱品目の差別化や独自化などの魅力づくりによる応援者等拡大に取り組む。</p> <p>○住民とそれぞれ自治体の単線関係だけでなく、圏域における住民の「複線関係」を構築するため、まちづくりへの参加の機会や必要なサービスを提供するふるさと住民制度（ふるさと住民票）を構築し、圏域内のつながりを確かにするとともに、近年増加傾向にある複数地域居住者や移住体験者などが、地域に溶け込みやすくする環境作りを行う。</p>					
事業効果	<p>○「ふるさと納税」を活用した「新たな仕組みづくり」による財源確保から、効果的な圏域連携事業の推進を図ることができ、また、ふるさと納税を行った人に対し、「ふるさと住民」制度との連動により、単なるもののやりとりにとどまらず、まちづくりへの参加の機会の保障や必要とされるサービスを提供するなど、本来のふるさと納税の意義を高められる。</p>					
役割分担	<p>○全体調整及び総合窓口は本別町が行う。</p> <p>○各町は、「ふるさと納税」制度を活用する新たな仕組みづくりの検討と実施により、連携事業推進のための財源確保に努める。</p> <p>○各町は、ふるさと住民票制度の創設など、3町住民の「ふるさと圏域」としての意識を高める取り組みを連携し推進する。</p>					
指標	<p>○地域内に住みたいと思う人の割合：70%（H31）</p> <p>※参考 本別町平成27年度調査 55.9%</p> <p>足寄町平成26年度調査 62.9%</p> <p>陸別町平成21年度調査 58.5%</p>					
事業費見込額 (単位：千円)	H27	H28	H29	H30	H31	計
	0	1,050	900	900	900	3,750

【事業費一覧】

(単位：千円)

市町村名	H27	H28	H29	H30	H31
本別町	0	350	300	300	300
足寄町	0	350	300	300	300
陸別町	0	350	300	300	300
合計	0	1,050	900	900	900

5 連携地域の概況

本別町 ●人口 7,343 人 ●面積 391.91 km²

十勝の東北部に位置し、利別川が街の中心を緩やかに流れる本別町は、十勝特有の大陸性気候で、夏と冬の寒暖差が大きく、一年を通じて降水量が比較的少ないのが特徴です。

この肥沃な大地と、恵まれた気候の中で育まれた特産品の豆は、良質・安全・安心な食材として出荷され、豆腐、みそ、しょうゆ、納豆などの加工品や健康食品としても注目されている黒豆は、「キレイマメ」のブランド名で全国に発信しています。

また、北海道横断自動車道の帯広・釧路・北見を結ぶジャンクションとなることから、高速道路を活用したまちづくりの振興が期待されます。

■特産品・グルメ

○キレイマメ（豆製品ブランド） ○生豆
○豆加工品 ○スイーツ ○砂糖 ○乳製品

■観光名所

○義経の里 本別公園・幽仙峡
○愛のかけ橋(ライトアップ) ○ひまわり迷路
○本別大坂(国道274号)から望む夜景
○道の駅「ステラ★ほんべつ」



本別公園

足寄町 ●人口 6,989 人 ●面積 1,408.04 km²

足寄町は十勝の東北部に位置し、1,408.04 km²の広い面積を有しています。この広大な大地では、東京ドーム約 270 個分の面積を持つ大規模草地育成牧場や、独特の湖面の色彩が訪れた人を魅了するオンネトー、高さ 2~3m にもなる螺湾ブキなど、豊かな自然が育まれています。

また、平成 20 年には開町 100 年という節目を迎えました。先人から継承した緑豊かな大地という貴重な財産を後世に継承しながら、町民全てが心穏やかな毎日を過ごせるよう、人と自然にやさしい地域社会を考えて様々な事業が推進され、活力ある町の基盤が整えられています。子どもも大人も、そしてお年寄りも、全ての人々が「この町に住んでいてよかった」「この町に生まれてよかった」と思える、ふれあいのあるまちづくりが進められています。

■特産品・グルメ

○螺湾(らわん)ブキ ○ナチュラルチーズ
○馬肉 ○豆類 ○木質ペレット

■観光名所

○オンネトー ○雌阿寒岳
○足寄動物化石博物館
○あしよろ銀河ホール21 (道の駅)



オンネトー

陸別町 ●人口 2,475 人 ●面積 608.90 km²

陸別町は豊かな自然に恵まれた林業と酪農の街です。また、「寒さ」「星」をテーマとしたまちづくりに力を入れております。

日本最大級の公開型望遠鏡を備えた「銀河の森天文台」では、星やオーロラなどに関する特色あるイベントが年間通して開催されており、多くの天文ファンの注目を集めています。

また、平成 18 年に廃線となったふるさと銀河線を体験鉄道公園として復活させた「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は、鉄道ファンだけでなく家族で楽しめる施設として注目を集めています。

■特産品・グルメ

○山菜(山ぶき、うど、ぎょうじゃにんにく)他

■観光名所

○ふるさと銀河線りくべつ鉄道
○銀河の森天文台
○銀河の森コテージ村 ○かぶとの里



ふるさと銀河線りくべつ鉄道